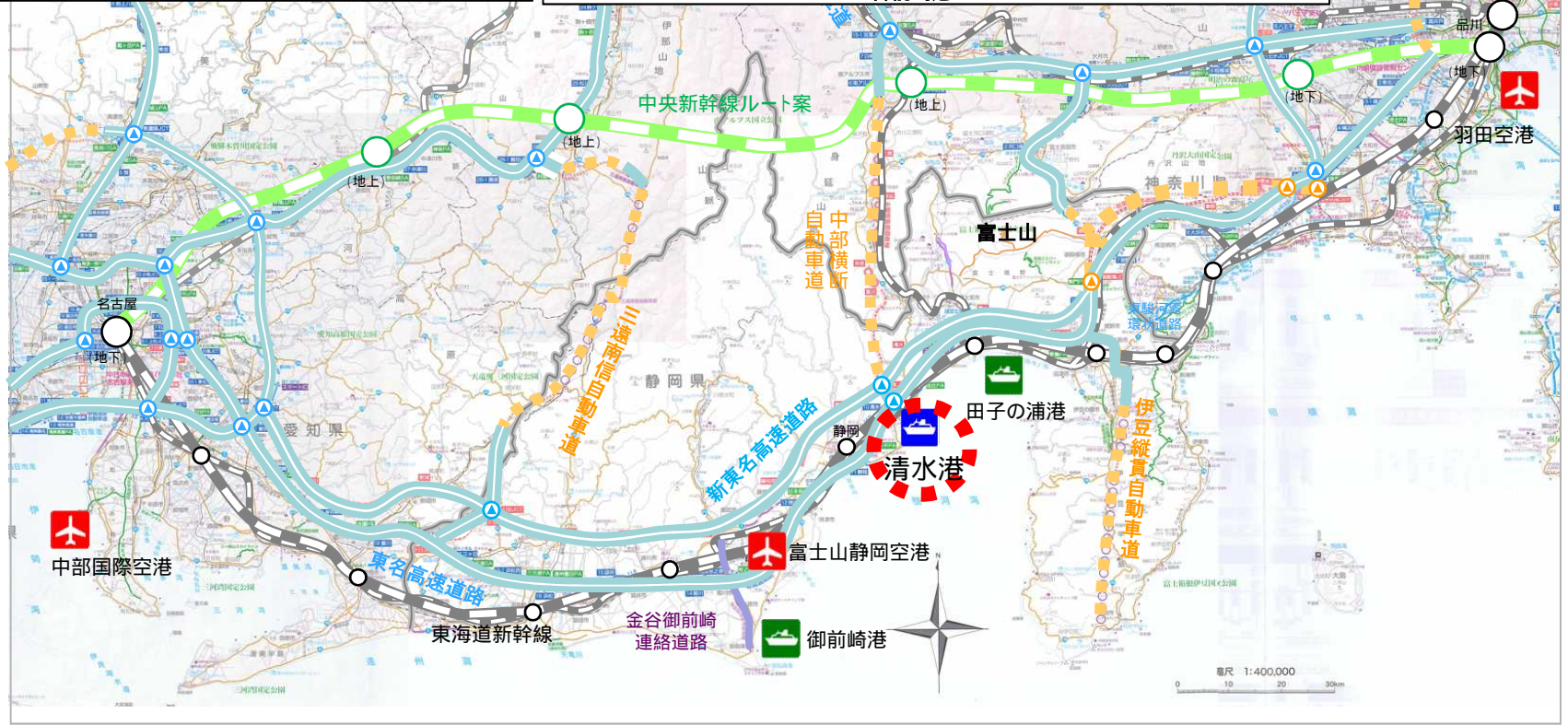
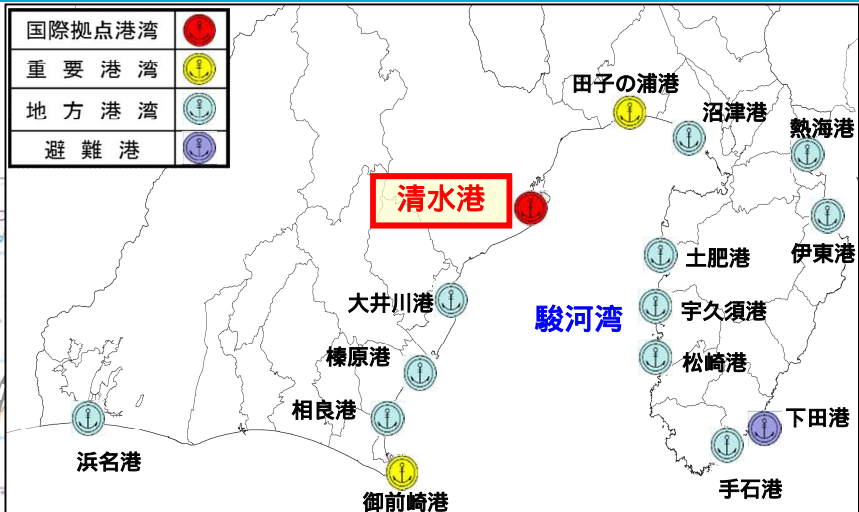
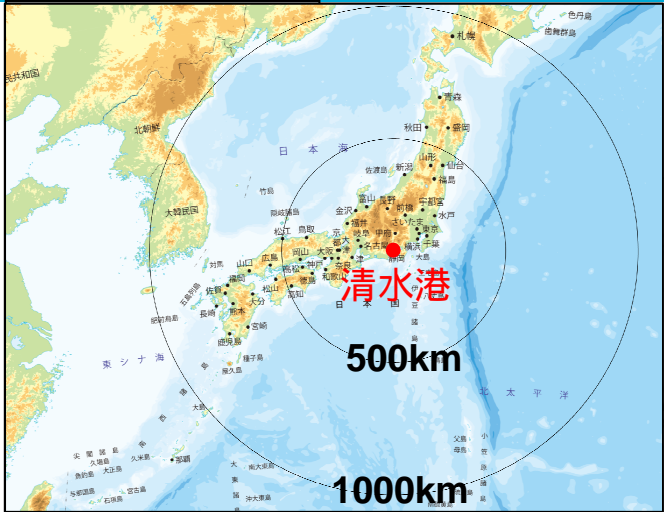


清水港港湾計画 一部変更

前回改訂:平成16年7月(目標年次:平成20年代後半)

平成29年11月10日
交通政策審議会
第69回港湾分科会
資料1-2



計画変更箇所と変更のポイント

【変更のポイント】

クルーズ船の寄港回数の増加及び大型化に対応するため、日の出地区の旅客船埠頭計画等を変更する。




撮影：2016年1月

「国際旅客船拠点形成港湾」について

- 民間資金を活用し、官民連携によって国際クルーズ拠点の形成を図るため、港湾法を改正し、旅客施設等への投資を行うクルーズ船社に岸壁の優先使用などを認める新たな制度を創設した。
- また法律に基づく新しい制度を適用する「国際旅客船拠点形成港湾」として6港(横浜港、清水港、佐世保港、八代港、本部港、平良港)を指定した。(平成29年7月)

港湾名 (港湾管理者)	横浜港 (横浜市)	清水港 (静岡県)	佐世保港 (佐世保市)	八代港 (熊本県)	本部港 (沖縄県)	平良港 (宮古島市)
船社名						
カーニバル・コーポレーション&plc						
ロイヤル・カリビアン・クルーズ						
ゲンティン香港						
郵船クルーズ						



カーニバル・コーポレーション&plc: 世界やアジアで半分のシェアを持つクルーズ会社グループ。傘下に、コスタ・クルーズ社、プリンセス・クルーズ社などクルーズ・ブランドを有している。

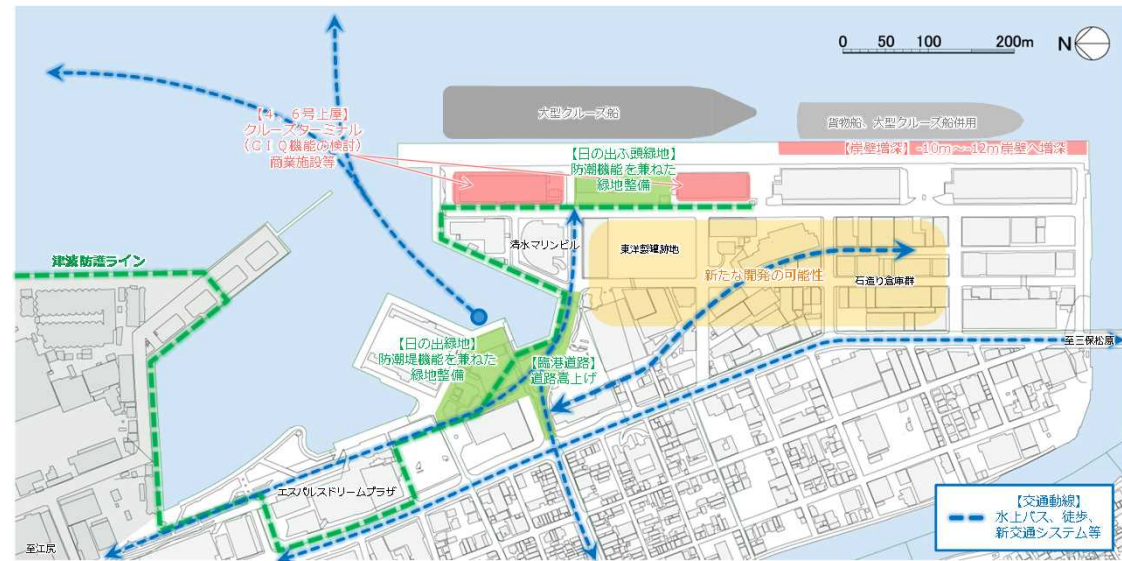
ロイヤル・カリビアン・クルーズ: オアシス・オブ・ザ・シーズなど世界最大のクルーズ船を有するクルーズ会社。

ゲンティン香港: 傘下に、スタークルーズなどのクルーズ・ブランドを有し、我が国に寄港する台湾発着クルーズのシェアは8割強を占めるクルーズ会社。

郵船クルーズ: 飛鳥 を所有する邦船社。

【参考】清水都心ウォーターフロント地区開発基本方針

- 静岡県と静岡市は、平成29年3月に「清水都心ウォーターフロント地区開発基本方針」を策定し、日の出地区ではクルーズ船の受入環境を改善し、クルーズ振興を核とした交流拠点の創出に向けた動きが活発化している。
- 日の出地区は海からの来訪者にとって、静岡の第一印象が形作られる空間となるため、都市の顔にふさわしい空間の設え、おもてなしの対応、にぎわいの創出により、国際クルーズ拠点としての整備を目指す。
- 既存上屋をCIQ機能も備えた国際クルーズターミナルや商業施設へ転換し、緑地とあわせ、憩い楽しむ交流空間を創出する。



日の出地区 機能配置イメージ



H32頃を目標とした整備の一例（日の出地区）
（清水都心ウォーターフロント地区開発基本方針より）



機械遺産：清水港テルファー



テルファアのクリスマスライトアップ

清水港のクルーズ船受入状況

- 現在、クルーズ船は、日の出地区の貨物岸壁(-12m)を利用している。
- クルーズ船の寄港回数は、平成27年に10回、平成28年には16回と増加しており、平成29年は過去最高の38回の寄港が予定されている。
- 平成29年7月に、「国際旅客船拠点形成港湾」に指定された。

現在のクルーズ船寄港状況



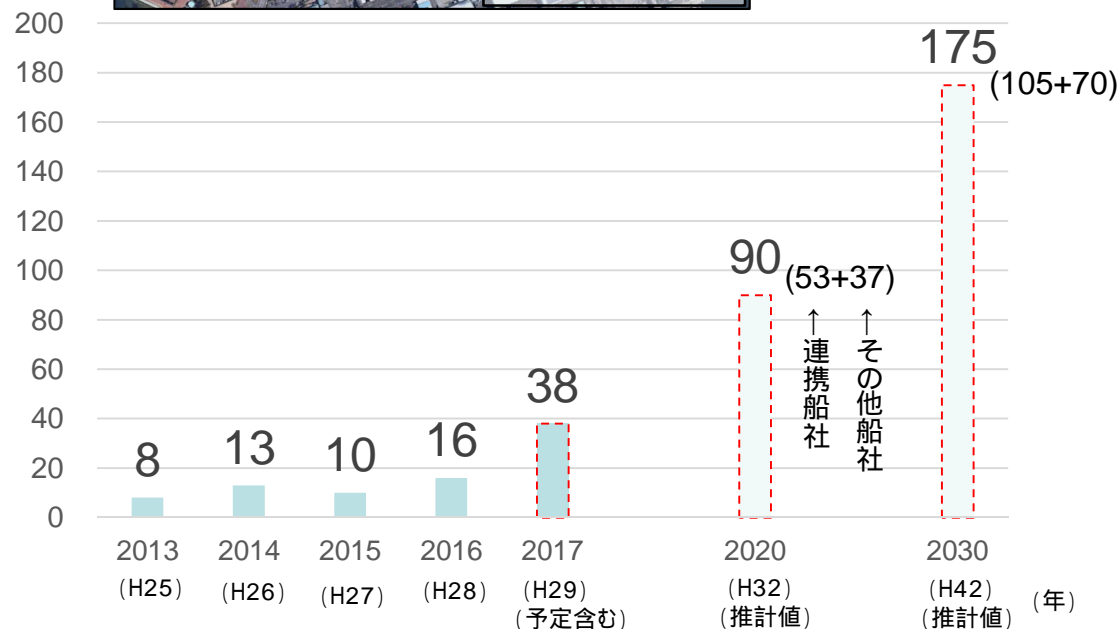
クルーズ船寄港時



パルプ船荷役時



(回数)



スーパースターヴァーゴ
初入港時の様子



2020年及び2030年の寄港回数は、連携船社は官民連携による国際クルーズ拠点形成計画書(目論見)より、その他船社は港湾管理者による試算。

クルーズ船受入環境の整備

- 国際クルーズ拠点形成に向け、連携するクルーズ船社所有の大型クルーズ船の寄港に対応するため、日の出地区において、旅客船専用の岸壁を計画するとともに、クルーズ船の2隻同時接岸及び貨物船に対応するため、貨客併用の岸壁を計画する。
- 岸壁延長・水深は、世界最大船長・最大喫水のクルーズ船に対応するものとする。



寄港対象とするクルーズ船の船型

【延長】(日の出新2号岸壁)
 ゲンティン・ドリーム
 (連携するクルーズ船社所有の大型クルーズ船)



全長 : 335m **必要延長: 410m**
 型幅 : 40m
 満載喫水: 8.8m
 総トン数: 151,300トン
 旅客定員: 3,352名
 国内寄港: 那覇港、平良港
 アジア寄港: 香港港、広州港
 初就航: 2016年

【延長】(日の出新1号岸壁)
 マジェスティック・プリンセス
 (寄港実績の多いクルーズ船社所有の大型クルーズ船)



全長 : 330m **必要延長: 410m**
 型幅 : 38.4m
 満載喫水: 8.55m
 総トン数: 143,000トン
 旅客定員: 3,560名
 国内寄港: 横浜港、大阪港(予定)
 アジア寄港: 上海港、香港等(予定)
 初就航: 2017年

寄港対象とする貨物船の船型

【水深】(日の出新2号岸壁)
 Queen Mary 2
 (世界最大喫水のクルーズ船)



全長 : 345m
 型幅 : 41m
 満載喫水: 10.3m **必要水深: 12m**
 総トン数: 148,528トン
 旅客定員: 2,592名
 国内寄港: 横浜港、大阪港、長崎港
 アジア寄港: 上海港
 初就航: 2004年

【水深】(日の出新1号岸壁)
 既定計画(日の出地区1~5号)の
 最大対象船型 3万DWT級外貿貨物船



全長: 182m
 満載喫水: 10.5m **必要水深: 12m**
 載貨重量トン数: 30,000トン(外貿)
 取扱貨物: 輸入パルプ

確認事項	「港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針」との適合
魅力ある交流空間の形成	<p>今後の港湾の進むべき方向</p> <p>4 活力のある美しい港湾空間の創造と適正な管理 観光や海洋性レクリエーションを核とした交流空間の形成 観光による地域の活性化や人々の交流を支えるフェリー、旅客船、クルーズ船等の多様な要請に対応した、快適で利便性の高い交流空間を形成する。このため、地域の特性に配慮した旅客ターミナル施設や交流施設を整備する。</p> <p>5 <u>クルーズ船の受入れの促進</u> クルーズ需要の増加に対応し、観光立国の実現や地方創生に寄与するため、各港湾寄港授与に応じたクルーズ船の受入れ環境を整備する。特に、クルーズ船の寄港回数が多い港湾では、必要に応じてクルーズ船を専用のに受け入れる岸壁や多くのクルーズ旅客の乗降に対応できる旅客施設、十分な面積の駐車場等を整備する。</p> <p>官民の連携による港湾の効果的な利用 クルーズ船の受入れ拠点を形成するため、港湾管理者とクルーズ船社等の連携による港湾の効果的な利用を推進する。</p>
臨海部における防災拠点づくり	<p>港湾機能の拠点的な配置と能力の強化</p> <p>7 大規模地震対策施設 大規模な地震が発生した場合に、被災直後の緊急物資、避難者等を輸送するための機能を確保するべく、東海地震、東南海・南海地震等の大規模地震災害の切迫性、地理的条件、港湾の利用状況、緊急輸送道路網等背後地へのアクセスの状況等を考慮して、大規模地震対策施設を適切に配置する。また、大規模地震対策施設は、耐震強化岸壁と、緊急物資の保管や被災者の避難等に資する広場、市街地と港湾を連絡する道路等を一体的に備える。</p>

一部変更の内容

- クレーニング需要の増大に適切に対処するとともに、軽工業品等の外内貿バルク貨物を取り扱うため、公共埠頭計画及び旅客船埠頭を計画する。
- これに伴い、水域施設計画、土地利用計画を変更する。
- 大規模災害時に住民の避難、物資輸送等に供するための大規模地震対策施設の計画を変更する。

【既定計画】

公共埠頭計画
 水深 12m 岸壁2バース 延長480m [既定] 4-5号岸壁
 水深7.5m 岸壁2バース 延長260m [既定] 2-3号岸壁
 水深4.5m 岸壁1バース 延長 80m [既定] 1号岸壁

水域施設計画
 泊地 水深7.5m、4.5m 面積1.8ha [既定]

土地利用計画
 埠頭用地 面積6.9ha [既定]
 交流厚生用地 面積5.1ha [既定計画]

大規模地震対策施設計画
 水深12m岸壁 2バース 480m [既定]

【今回計画】

公共埠頭計画及び旅客船埠頭計画
 水深 12m 岸壁2バース 延長820m (うち480m既定)
 (旅客船埠頭 水深12m 岸壁2バース延長820mとして利用する。
 または、公共埠頭 岸壁1バース 延長410mとして利用する。)
 [既定の変更計画] HS1、HS2

水域施設計画
 泊地 水深12m 面積1.8ha [既定の変更計画]

土地利用計画
 埠頭用地 面積6.3ha [既定の変更計画]
 交流厚生用地 面積5.7ha [既定計画の変更計画]

大規模地震対策施設計画
 水深12m岸壁 2バース 820mのうち480m [既定]

既定計画

【水域施設計画】
 泊地 水深7.5m、4.5m 面積1.8ha [既定]

【公共埠頭計画】
 (2-3号岸壁) 水深7.5m 岸壁2バース 延長260m [既定]
 (1号岸壁) 水深4.5m 岸壁1バース 延長 80m [既定]

【公共埠頭計画】
 (4-5号岸壁) 水深 12m 岸壁2バース 延長480m [既定]

【大規模地震対策施設計画】
 (4-5号岸壁) 水深 12m 岸壁2バース 延長480m [既定]

【土地利用計画】
 埠頭用地 6.9ha [既定]
 交流厚生用地 5.1ha [既定計画]

今回計画

【水域施設計画】
 泊地 水深 12m 面積1.8ha [既定の変更計画]

【公共埠頭計画及び旅客船埠頭計画】
 水深12m 岸壁2バース 820m (うち480m既定)
 (旅客船埠頭 水深12m 延長820m HS1、HS2
 公共埠頭 水深12m 延長410m HS1)
 [既定の変更計画]

【大規模地震対策施設計画】
 水深12m 岸壁2バース 延長820mのうち480m
 HS1、HS2 [既定の変更計画]

【土地利用計画】
 埠頭用地 6.3ha [既定の変更計画]
 交流厚生用地 5.7ha [既定計画の変更計画]